

お願いの2点目は自主防犯の取り組みです。

平成14年、犯罪の発生件数が戦後、統計を取り始めてから最高を記録、全国では285万件になり、県内でも36,000件になりました。10年位前に比較しますと全国では100万件、県内でも1万件の増加です。これを何とか抑えようと対策をたてまして、国、警察庁、県警察で具体的な目標をおきました。

今年の暮れまでに新潟県は犯罪については2割強の8000件を減らし、28,000件以下にする、交通死亡事故も220人位あったものを180人以下に抑えると公表いたしました。

皆様方に約束した訳でありまして、何とかこれを果たすべく取り組みをしているところです。パトロール強化やボランティアの方々から協力を頂いたり、県自体も安全なまちづくりに向けた条例を制定したり、三条市も地域安全対策の専門部署を新たに設けたり、まちづくりサポート交付金制度を設けたりさまざまな取り組みをして頂いているところです。

管内は、平成15年には万引きや自転車盗、全部入れて1,600件位の犯罪発生がありました。去年は約1,200件、これを今年は1,100件まで抑え込みたいと考えております。

発生事件の約8割は窃盗事件ですが、この実態をみますと自主防犯に対する意識が浸透していないのではないかと思います。

例えば昨年1年間の統計で空き巣被害で被害時に戸締まりや鍵掛けをしていなかった割合ですが、全国平均が約3割、新潟県の平均が約7割、三条は8割強、10件の被害の内8件余りが戸締まりも鍵もかけていないで被害に遭っている。

車上狙いは、全国平均が3割、新潟県の平均が6割、三条は7割強、自動車、自転車盗、いずれも同じ状況です。一時代前、それぞれの地域が強い繋がりを持っていた頃は、犯罪が発生しにくい環境が育ったかと思います。しかしながら、現状は地域社会の繋がり希薄になり、高速交通網が整備され情報化社会の進展で全国どこへでも短時間で行ける、人が多く監視の目がきつい都会地よりも希薄な地方の方が犯罪を犯す者には好都合となっています。

環境が大きく変化している中であって、従来と同じ意識で生活をしていると、被害に遭われる確率も高くなる。私は他の会合で「三条の方は人が良い、疑うことを知らないのではないだろうか」と申し上げてきましたが、これまで何もなかった。「家なんか鍵を掛けたこともないし、車だって鍵なんか抜いたことがない」これでは、いかに危険かお分かり頂けると思います。「自分の物は自分で守る」「自分の安全は自分で注意する」基本的なことだと思いますが、是非、自主防犯に対する意識、取り組みをお願いしたい。

昔から「日本人は、水と安全は只だと思っている」と言われてきました、そんな良き時代が長かったのかも知れませんが、今や水も買って飲む時代、環境も大きく変わってきている実態をご理解頂きたいと思います。

最後に三条で感じたことを1つだけ、申し上げます。バブル崩壊による長い不況、加えて一昨年は大水害、市民生活も企業活動も大打撃で復興も容易でない、そんな状況だと承知しておりました。昨年、三条に来て、程なく総鎮守八幡様の全面改修、お祭り、引き続いて三条祭り、以前に勤務した頃

羽賀一夫君 先日初めて男の内孫が生まれましたので。

大野新吉君 猪股署長さん卓話有難うございます。本日は宜しく願います。

馬場直次郎君 待望の秋の気候になってきました。天高く馬肥ゆる秋、体重の増加には気をつけましょう。!

星野義男君 今日庭にとろろを入れたので!!

五十嵐茂君 猪股署長に敬意を表し自らいつまでもよい子でお世話にならない様に。

堀川正幸君 ライラ研修で旧山古志村長の長島さんの講演を聞きました。感動のあまりハンカチで涙をふきながら拝聴しました。危機管理意識、指導力、判断力、決断力、人を思いやる心の暖かさや広さに心打たれました!!

岡田健君 所用で早退致します。

小林茂君 BOXに協力。

山崎勲君

横田加代子君 BOXに協力。

落合益夫君 BOXに協力。

丸山達夫君 BOXに協力。

米山奨学会：

小林満君 日ロ訪問研修の割戻し金を功労者として寄付します。

卓 話： 「管内の現状等について」 三条警察署長 猪股良二様

本日は、このような機会を与えて頂き、また協力を頂いておりますクラブ員の皆様方に感謝申し上げます。

三条に来ましてから「三条ロータリークラブ」「下田ライオンズクラブ」にも呼んでいただきました。

その都度、主催者の方から「皆さん大変お忙しい、話は出来るだけ短い方が喜ばれます」とアドバイスを頂戴いたしました、その通りだと思います、正直申し上げまして警察の話は面白くない、「あれをするな、これに気をつけろ」と聞き飽きた親の小言の様なものですから、そんな話を長々やられたら堪ったものではない。

充分承知を致しておりますし、時間内に終わる事だけを考えて貴重な時間を使わせて頂きます。

「青少年の健全育成に関すること」について話をするようにとのことでした。三条地区の青少年の関係につきましては、現状は取り立てて大きな非行事案ありませんし、前兆的な動きも現状では把握しておりません。ただ、安心は出来ません、全国的には、自分の意に添わないからと短絡的に親を殺す、自宅に放火して親兄弟を殺す、交際していた友達をいとも簡単に殺害する、こんな事件が多発しております。

以前では考えられない「親が叱るから」とか「勉強しろ、手伝えとうるさいから」とか「自分の意見と反対の事を言うから」と、こんな些細な理由からです。成長していく過程で、限られた経験や知識の中で自分で消化出来ない問題もあるかと思いますが、いきなり相手を攻撃して殺してしまう、そ

んな行動にどうして走るのか、分かりません。

報道では「明るく真面目、兄弟の仲も良い、近所や友達の評判も良い、成績も悪くない」こんな子供達です。学校関係者の方々も口を揃えて「これまでに問題もなく考えられない」と繰り返す様子が報じられております。

何故こんな子が信じられない様な犯罪を犯すのか、以前であれば大人の言うことも聞かない、親の監督にも従わない、勉強も出来ない、そんな子の一部が非行や犯罪を犯す、十分な予兆があって結果がある。従ってこんな子供に対して補導や指導をして、健全な生活に戻していく取り組みをしていました。その部分が無くなった訳ではありませんが、一般的に真面目、優秀と言われる優等生の子供が凶悪な犯罪を犯すものに対して、我々としてどう対策をとれば良いのか、大変むずかしい状況です。

生活形態の変化、核家族化や地域社会の連帯意識の衰退など極端に限られた中での人間関係、家族の中での自分の立場も位置も理解できない。人としての知恵が育つ前に既存の知識だけを与えられ、相手の尊厳や思いやりの心を教える前に、自己の権利や責任転嫁の知識だけを教え込み、それを主張することが当然だと是認していく。

また、先んじて新たな知識を駆使して大儲けをする、倫理観も既存の慣習も関係なし、旧弊の改革、次代の寵児だ、勝ち組だと、英雄であるがごとく華々しくもてはやす、そんな大人社会の在り方も成長期の子供の目にはどう映るのか。根底にはこんな事も一因としてあるのかなと考えたりしております。

情報化社会の進展により全国各地で発生するこのような事案、否応なしに入ってきます。このことは同時に一律的に関心を高め興味を引く事になります。免疫力の低い子供の意識にどう影響するのか、山の向こうのこと、都会地でのことと考えて居られない。今月3日には、新潟市でも中二の子供が母親を金属バットで殴ってけがをさせる事件もありました。現実インターネットを利用の自殺志願者の募集なども三条市内の者がネットに掲載して募集をしていた事実が、今年2件ありました。こんな事が身近で行われているのが実態であります。呼びかけに応じた女の子が募集した男性と会ったのですが、「こんな人とは一緒に死にたくない」と、自殺を思い止まった事実もありました。この人は結果として人助けをしたのかも分かりませんが、とにかく事案の発生は今は全国どこも同じ、安心してられない状況であります。

我々としては少年ボランティアの方々や学校関係の方々などと情報交換や協働での活動をしながら現状認識を同じにして、次代を担う青少年の健全育成に努めて行く取り組みをしているところです。

子供は、やんちゃな位が良い、勉強が好きな子なんかいる訳がない、伸び伸びと遊び回って、親に叱られたり友達と喧嘩したり、成績なんか普通であれば十分、それよりも多くの経験をして色々な知恵を身につけることの方がもっと大事なことはないかと、私は思います。

学校が終われば、塾だ、習い事だと子供らしい生活をするゆとりもなく知識だけの押しつけが、果たして良いのか、子育ての経験も豊富な皆様方の考えはいかがでしょうか。

先日、夫婦喧嘩の届け出がありました。中年の夫婦でしたが家族で出かけた先で夫が酒を飲んだことから帰宅後、奥さんが旦那さんの顔を引っ掻いた、そのことでつかみ合いの喧嘩、臨場した警察官

に6歳の女の子が「お母さんが我慢すれば良いのに、我慢しないから喧嘩になった」と説明したとの報告を受けました。経験の成果かも知れませんが、親よりも精神的に成長しているのかも知れませんが、将来が楽しみだと笑いましたが、いかがですか。

青少年の健全育成、被害者になっても加害者になっても困りますし、妙薬はありません、大人である我々が関心を持って継続的に取り組んでいく以外ありませんので、どうかよろしくお願い致します。

本題から離れますが、現状で皆様方をお願いしたいことを2点申し上げます。

1点目は飲酒運転の防止です。結局そんな話かといわれそうですが、管内で相変わらず飲酒運転があります。管内の交通事故は、ここ10年位では一昨年(16)が最も少ない発生でありました。死亡事故も最も少ない。昨年は、死亡事故は何とか同数の5人で抑えましたが事故は30件位の増加でした。

今年は死亡事故はこれまで2件と昨年と同じですが、事故自体は増加した昨年より僅かながら増加の状況です。管内での事故は1件でも減らしたい、勿論死亡事故は限りなくゼロに近づけたい、その為の取り組みをしています。

8月に三条夏祭りがありました、皆様のお陰で祭りに伴っての事件事故はありませんでしたが三日間連続で飲酒運転によるひき逃げ、当て逃げ事故がありました。逮捕処理しましたが、その後も企業の責任者、公務員など飲酒運転で事故は収まりません。

8月27日には、福岡で飲酒運転の22歳の市職員が追突事故を起こし、幼い子供3人が両親の必死の思いもむなしく犠牲になりました。

報道記事の中に「可愛い盛りの孫達を瞬時に失った祖父は《人殺しだ》と声を詰まらせた。夏祭りの思い出だろう、1歳の妹を挟んで法被姿の4歳の兄、3歳の弟が寄り添う遺影はあどけない、学校に上がり、遊び、泣き、笑い、勤め、恋をして、結婚し・・・花も実もある人生が待っていたはずである、あの遺影を見た人はもう、飲酒運転は出来ない・・・妹を真ん中にして手を繋ぎ、心細い旅路にあるだろう3人の霊位に瞑目しつつそう信じる」とありました。涙がでました。本当に痛ましい。投書欄には「飲酒運転事故には殺人罪を適用すべきだ」というものもありました。

こんな不心得の者による事故に、我々も何時、巻き込まれるか分からない、大丈夫だという保証はありません。

私は学者でも研究者でもありませんから専門的なことは分かりませんが飲酒運転をする根底には、法を無視する意識以前に、自己責任意識の欠落と責任転嫁の意識があるのだろうと思います。

「飲んで運転している者はいくらでもいる」「皆がやっているなら自分もやってもいい」「自分だけ守る必要はない」「見つからなければ良い」こんな意識が有るんだと思います。

危険性については、今更申し上げる必要はないと思いますし、事故や違反に伴う被害も、本人自体に止まることなく一緒に飲んだ者まで責任追及される時代になって居ることもご承知かと思います。

社会的な責任追及で、自治体であれば自治体の企業であれば企業の体質まで云々される時代です。管内でも依然として飲酒運転が多い実態をご理解いただいて、職員の方や周囲の方々に飲酒運転は事故破滅に直結する愚かな行為であることを広報し防止にお力を貸して頂きたい。